

平成 29 年度市民対話集会会議録

日 時：平成 29 年 4 月 27 日（木）19 時 00 分

場 所：シビックセンター 3 階 体育集会室

団体名：出会いの駅おかざき推進協議会

51 名

内 容：①開会

②市政ビデオの放映

③市長挨拶・説明

④団体代表要望・意見等

⑤その他要望等

市長― 本日は出合いの駅おかざき推進協議会、平成 29 年度の定時総会に引き続きまして、この市民対話集会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。皆さま方には、日頃より岡崎市の発展、とりわけ JR 岡崎駅周辺で実施しております土地区画整理事業をはじめとしました、さまざまな事業につきまして、格別のご理解とご協力をいただいておりますことを深く感謝申し上げるものでございます。また、われわれのやっていることにご不満もあらうかと思いますが、今、私、康生に住んでおりまして、近所の人に「あんたが市長になってから、どうして南ばかり良くなっていくんだ」、こういうことを言われてしまうくらいでございますので、ご理解いただきたいと思います。

さて、本日の対話集会が今年度最初の会となりますけれども、このように市民に直接語りかけるとするのは、私のモットーとする政治手法でありまして、市長就任以来、これまでの 4 年間で市民対話集会としては 38 回、また各種後援会や政策説明会などをはじめとしました、さまざまな機会を捉えて、小学校や中学校にも出掛けました。これまで合計で 300 回以上にわたりまして、こうした、私の目指す市政について、映像とともに話をさせていただいてきたところであります。こうした活動は決して義務でやっているわけではありませんで、私の政策として行ってきたことであります。他市ではあまり例のないことと自負しております。これからも、こうしたやり方を続けていく予定であります。今回も市政の現状をご報告申し上げますとともに、活発な意見交換の場としていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて新年度がスタートいたしまして、早いものでもう 1 カ月、過ぎようとしております。一昨年の家康公 400 年祭、昨年度の市政 100 周年といった記念事業も一段落いたしました。今年度は本市のこの先 100 年の礎を築くための重要なスタートの年となるわけでありまして、その先陣となりました先般の家康行列におきましては、本多忠勝公役として俳優で武道家の藤岡弘さんに特別出演をしていただきましたところ、当日は現在の侍といえる藤岡さんの姿を一目見ようと、実に多くの皆さま方にお集まりいただきまして、ことに模擬合戦の行われました乙川の河川敷は大変な人出でありました。藤岡さんが一声発するだけで、観衆からは歓声とため息が漏れ、さすが千両役者というのはこういうものだ、こんなことを思った次第であります。今回、あらためて家康公と三河武士団発祥の地であります岡崎を、市の内外に発信できたのではないかと、こんなふうに思っております。

またこの 4 月にオープンいたしました『子ども発達センターすくも』は、発達に心配のある子どもさんの相談・医療・支援を総合的にサポートする総合施設でありまして、子どもさん一人一人の特性に合わせて、お医者さん、保育士、看護師など専門スタッフが連携して、子どもの自立や発達を今まで以上にきめ細かくサポートしていくものであります。なお、愛称の『すくも』は市民公募で選ばれたものでありまして、みんな元気にすくすく育てほしいという願いを込め、名付けたものであります。

このように町の魅力向上や基本政策の充実など、バランスの良い市民サービスを提供し続けるためには、将来にわたって安定した財源を確保するということが必要命題となるわ

けであります。世の中にはすぐ何かというと、「財政に困ったら金持ちの財布から召し上げろ」、こういうことを言う人たちがいますけれども、それでは世の中はうまく回っていかないわけであります。これからの財政につきましては、現在の本市の経済の柱であります自動車産業を中心としたものづくりに加え、もう一つの柱として本市独自の自然と歴史文化資産を活かした観光産業の育成ということが重要であると、このように考えております。

その第1歩となりますのが、現在、着々と進んでおります乙川リバーフロント地区の整備であります。今回のリバーフロント計画というものは、行政によるハードの整備だけを目的としたものではなく、公共が整備した空間を民間の皆さま方に活用していただきまして、そこで儲けを出していただくことで、結果として行政には税としての収入が入るといった、稼ぐシステムづくりを目指したものであります。こうした趣旨のもと、昨年の夏に開催されました『おとがワ！ンダーランド』は、殿橋のたもとでのオープンカフェや、各種水上アクティビティなど、民間による新たな挑戦によって乙川の可能性を探る素晴らしい機会になったと考えております。

また、2回目となりました乙川に LED ボール 3 万個を流す中部地区最大級の光の祭典、『岡崎泰平の祈り』におきましては、今回から岡崎青年会議所や市内の 7 大学の皆さんたちにも運営に携わっていただきまして、合同の大学祭や飲食を楽しめる乙川ナイトマーケットなど併せて開催することで、民間主体の公民連携の事業として多くの方に楽しんでいただくことができました。

中には「泰平の祈りのときに娘がプロポーズされて、先日、無事結婚いたしました」と、そんなふうに、うれしそうにお礼を言われる方もありまして、意外な副次的な効果も生み出していることが分かりました。今後もこうした形をモデルケースといたしまして、新たな公民連携の事業として、チャレンジしてまいりたいと考えております。いずれにいたしましても、若いカップルだけではなく、高齢者の散歩道としても多くの方に親しまれておりまして、喜ばしく思っているところであります。

続きまして、ハード整備の状況であります。昨年春には、殿橋と明代橋のライトアップがスタートして、日常的なライトアップをはじめ、100 周年の記念ライトアップや、花火大会とのコラボレーションなどの演出によりまして、多くの市民や観光客の皆さまにお楽しみいただいております。また、殿橋と明代橋の間では、平成 31 年の完成を目指す仮称『乙川人道橋』の工事が進むなど、市民の皆さんが目を見て、その整備が進んでいることを実感していただける状況となってきました。また人道橋と籠田公園を結ぶ中央緑道につきましては、仮称『岡崎セントラルアベニュー』として再整備を図るため、専門家のノウハウに加えて、市民の皆さまの意見を反映させるためのワークショップや地元説明会を重ねてまいりました。

そしてこのたび、中央緑道と籠田公園再整備の基本計画を策定いたしました。この計画では籠田公園から乙川人道橋までを四つのブロックに分けまして、既存の特性を活かしながら新たな活用方法を見いだすこととしております。今年度、より詳細な設計を行いまして、

平成 31 年度中の完成を目指して、ただ今整備を進めております。いつも申しておりますけれども、決してハード整備をすることが最終目標ではなく、これにより出現した空間を使って、いかにまちのにぎわいを取り戻すか。このことが一番のポイントであると考えております。

東京ディズニーランドは、基本的なコンテンツがしっかりしておるわけではありますが、その上にあれだけの設備を作り、さらに毎年 200 億円ほど掛けてソフトとサービス事業に力を入れているわけであります。公共の事業におきまして、そのまねはちょっとできないわけでもありますけれども、私どもも民活とアイデアで勝負してまいりたい、このように考えております。今後は駅前からの、駅前からこの人道橋、籠田公園からの中心街を巡って、お城と岡崎公園につながる経路を、楽しくおいしい空間として演出したいというふうに考えております。

そして、次に東岡崎駅の周辺整備につきまして申し上げます。東岡崎駅からリバーフロント地区への安全な歩行者動線を確保するために、ペDESTリアンデッキを整備することになっております。中央部分には新たな広場が生まれることになりますので、完成後はイベント会場や朝市、移動ショップのような要素も取り入れた利活用を考えていきたいと思っております。またこのペDESTリアンデッキには、これまでさまざまな機会で申し上げてまいりましたように、徳川家康と改名した 25 歳当時の若き日の家康公のブロンズ像を、川と緑を背景に配置することとしております。

昨年末、家康公像を制作していただきます、日本のブロンズ像制作の第一人者であります神戸峰男先生のアトリエを尋ねまして、制作の状況を確認させていただきました。今回拝見しました 3 分の 1 サイズのモデルは、現在ポスターなどで使われております 10 分の 1 サイズの物に比べまして、格段に写実的な出来栄でありました。この 3 月から既に本物の制作に入っているわけでもありますけれども、先生も日本一の騎馬像を作る、こういった熱意を持って作っていただいております、大変感謝しております。

完成の暁には、単なる観光スポットとしてだけではなく、桶狭間の敗戦という人生の一大ピンチを独立へのチャンスとし、天下統一と泰平の世を実現した家康公の一生から、困難に立ち向かい、人生を切り開いていくという精神を子どもたちに学んでほしい、このように思っております。

さらに、先ほど映像でご覧いただいたわけですが、東岡崎駅東側の北東街区におきましては、民間の事業者の提案によりまして、乙川河畔という絶好のロケーションを活かした 9 階建てのホテルをはじめとしまして、カフェやレストラン、観光物産や生鮮品を扱うコンビニエンスストアなどの、複合施設の進出も決定したところであります。なお、これらの施設は平成 30 年末頃の完成を予定しております、これから岡崎の玄関口が大きく変わっていくものと期待しております。一部の方から、川の近くに高い建物を建てるなど、こういうご意見をいただきましたけれども、ちゃんと法律にのっとりまして、川からはかかるべき距離を取って環境に影響のないホテルを建てますので、ご安心いただきたいと思います。

ます。

そして、乙川リバーフロント地区の整備に続く取り組みといたしまして、昨年認定を受けました国の歴史まちづくりに基づいた、本市特有の歴史文化資産を活かしたまちづくりを進めてまいります。その対象の一つとなりますのが岡崎公園でありまして、これからは城跡公園にふさわしい公園として再整備をしていく必要があると考えております。ことに公園内などに戦国期から江戸期にかけて整備されました堀や石垣は、歴史的価値の大変高いものでありまして、岡崎城の最大の売り物であると言えます。

こうした中、先般、リバーフロント地区の整備において新たな石垣が確認されました。この石垣は、菅生川端石垣と呼ばれる江戸初期に整備された石垣になりまして、直線で切れ目のない石垣としては国内最長となる、長さ 400 メートルを誇るものであります。また、掘ってみましたところ、その高さは 5.4 メートルにも及びまして、当時は家康公の生誕地として風格ある構えの城郭が整備されていたことが、うかがい知ることができます。

この石垣は現在、河川敷の中にあるわけでありまして、堤防の役割を果たしているために、河川法上全てを掘り出して再現するということはなかなか難しいと思っておりましたが、一部だけでも観光用として石垣の高さを見れるようにする方法はないか。このことをただ今、愛知県と相談をしているところであります。幸い、大村知事に陳情できましたところ、「あのような貴重な物は、できるだけきちんと再現して残し、観光振興のために役立てるべきだ」、こういった激励をいただきまして、これは単なる知事的外交辞令ではなく、その旨の話が関係部局にもちゃんと伝わっておりまして、現在、県のご協力によりまして、その方向で大きく事業が進んでいるところであります。

そして現在の名古屋城と同様に、岡崎城の天守も建築から間もなく 60 年を迎えることになりますが、近い将来、城を建て替えるのか、または延命措置をしていくのか、これを私たちが決めなくてはならないところを迎えるわけでありまして。さらに建て替える場合は、木造で建て替えるのか、今と同じ鉄筋コンクリートで再現するのかの判断もしなくてはなりません。専門家のご意見を伺いますと、木造で再建すれば手入れ次第で 400 年は持つが、コンクリート製では資材の劣化によりまして、100 年ほどで再び建て替えの問題を抱えることになる、こういう話であります。ただし、木造は国の認定のハードルが大変高く、名古屋城のようにしっかりとした資料が残っていても、だいぶ国からは厳しいことを言われているわけでありまして。さらに現在場内にあります、資料を展示するための建物も、別に建てなければならなくなるわけでありまして。どちらにしたら良いかということは、そのときの岡崎市民の判断に任せることといたしまして、私としましては、そのときのために今からできる限り岡崎城に関する資料をきちんとそろえておきたいと、このように考えております。

5 月 1 号の市の広報にも載せてありますけれども、現在、市民の皆さまには自宅のお蔵や倉庫に岡崎城の設計図や見取り図、古い写真が残っていないか、再度ご確認いただきたいとお願いをしているところであります。四国の高松城も同じ試みで古い写真が、なんと平成 17 年にイギリスのオックスフォード大学で発見されまして、それがお城の再建の弾みになっ

たということでもあります。

岡崎市は旧家が多い所でありますので、同じような物が発見される可能性というのは大いにあるというふうに思っています。現実には福岡町におきましては、6代続くお医者さんの岩瀬医院のお蔵から、杉田玄白の『解体新書』、『ターヘル・アナトミア』の原典が発見されておるわけでもあります。岡崎はそういうまちであるわけです。

また、乙川リバーフロント計画と連動して進められておりますのが、リノベーションのまちづくりであります。リノベーションのまちづくりというのは、現代版家守の手法を用いて、遊休不動産や公共不動産を活用した新しいまちづくりをしていこうというやり方です。この家守というのは、江戸時代の長屋の大家さんのことで、単に家賃の収受をするだけではなく、落語に出てくる熊さんや八つつあんと大家さんの関係のように、店子の生活の面倒や仕事の世話まで地域のマネジャーとしての役割を果たす、こういったシステムであります。

そして現代版家守というのは、行政や地域住民と連携し、建物の管理や入居者の支援など、地域づくりに通じて収入を得て事業を進めていく人や団体のことでありまして、空き地や空き家に関する広範な情報を持ち、出店希望者へ橋渡しや事業のアドバイスも行いながら、自らもそうしたことをやることによって稼いで、維持していくわけでもあります。既に籠田公園周辺には、子育て中のお母さんたちが手作りのお総菜やスイーツを販売するお店を始めたり、老舗のせんべい屋さんが空きビルを改装して移転するなど、順次、形になってきております。セントラルアベニューが整備されたときには、リヤカーに載せてお弁当も売りたいと、こういった出来事もあるようであります。

そしてその他に地域におきましても、各地の事業に合わせた基盤整備を進めていきたいと考えております。まず南部地域におきましては、先の東岡崎駅と並ぶもう一つの岡崎の南の玄関口であります JR 岡崎駅前におきまして、300 人程度のコンベンションホールと、10 室程度であります 1 泊 4 万円クラスのオールスイート仕様の高級ホテルをはじめ、ミシュランの星獲得シェフのレストランやカフェを併設した商業施設が、今年の 10 月頃にオープンすることになっております。この地域ではなかなかこういった物はないわけでありまして、本当に一日も早い完成を待っております。外周には噴水付きの公園や、岡崎駅とつながるペデストリアンデッキも整備されることになっております。

加えて、きれいに住みやすく、使いやすい環境づくりのために取り組んでまいりたいと思っております。岡崎駅東口につきまして、今年度は電線などの地中化も進めてまいります。また JR 岡崎駅を中心とした、南部地域における保育需要の増加に対応するため、南部市民センター分館の敷地内には、新たに乳幼児専用の保育園の整備も進めます。こちらの保育園につきましては、来年、平成 30 年の開園を目指して、建設してまいります。

そして、市民待望の藤田学園の大学病院につきましては、24 時間 365 日の緊急医療に対応し、22 の診療科と 400 床の病床を持つ総合病院が、平成 32 年の 4 月の開院を目指して整備が進められることが正式に決定しまして、この 2 月には、今ご覧いただいております完成

予想図も公表されたところであります。藤田学園側としましては、三河地区への初の進出でありまして、エース級の医師と最新の医療設備を投入する、こういった大変な意気込みであります。岡崎の南部のみならず、市域全体、西三河地域にとってもこれは朗報であると考えております。

さらに大学病院の隣接地には、各種商業施設の進出も決まっております。また、ヘリポート付きの新公園の計画もあります。これから南部地域は大きく変わってまいります。もちろん、そうした施設を活かすためには、接続道路や環境整備にも国や県と協力して、しっかり整備をしていかなくてはならないと考えています。まだ若干の用地買収の問題も残っておりますけれども、これらの事業の実施にあたりまして、皆さま方をはじめとしまして、南部地域の多くの方にも多大なるご理解とご協力をいただいておりますことを、あらためて感謝申し上げるものであります。

また額田地域におきましては、平成 30 年春の供用開始を目指しまして、額田支所をはじめ周辺にあります額田図書館などの機能を集約した、仮称『額田センター』の整備を進めてまいります。さらに市内の公園整備での額田の木材の活用や、地域独自の活性化対策についても、ただ今検討中であります。岡崎は市域の 6 割が現在、中山間地になっておりまして、この山の地域、そしてまた山の資産、木材、これをいかに活かしていくかということが岡崎市の、都市の課題の一つでもあると思っております。

そして、これまで公園と言いますと子どもの遊び場という認識が強かったわけでありまして、これからは高齢者の皆さま方にくつろいでいただくとともに、健康増進のための場所としての施設整備もしていきたい、このように考えておりまして、そこにぜひ額田の木材を使いたい、このように思っております。

そして、本宿駅の周辺におきましては、新東名岡崎東インターチェンジや国道 473 号バイパスの整備により交通の利便性が向上したことによりまして、民間事業者によりましてアウトレットモールの進出が計画されております。この計画を受けて、一部の人の中には「中心市街地の商圈が侵されるんじゃないか」、こういった不安の声も伺っておりますけれども、アウトレットモールというのはブランド品などの高級品が主な売り物でございまして、市内の生活用品を売る店とは競合しないのではないかと、このように考えております。

まだ土地利用に関する課題が残っておるわけでございますけれども、もしこれが実現すれば、額田地域を含む東部地域の活性化や雇用に対しても大きな影響が期待されますことから、本市としても積極的に対応していきたいと考えております。

そして、市の北部にあります県営グラウンドにつきましては、愛知県からの移管を受けまして、これから陸上競技場を第 3 種公認に向けまして全天候型の改修を行いますとともに、観覧スタンドの設置を行います。さらに内側の所は天然芝を張りまして、サッカーやラグビーのグラウンドとしても活用できるように整備してまいります。平成 32 年の供用開始に向けて整備を進めてまいります。

また、50 メートルプールがこれまであったわけでありまして、これは老朽化して

再整備には大変なお金が掛かるということでございまして、今回、県の管理のもとに撤去されまして、跡には8面のテニスコートが造られることになっています。そして、これまでテニスコートのあった所は更地にしまして、子どもたちがさまざまなスポーツで使っていたり、また高齢者の方やグラウンドゴルフなどで使っていただけるような場所にしますし、また大きなイベントを行うときには、ここを臨時駐車場として使えるような、そんな検討をしております。

その他、矢作地区におきます矢作川堤防リフレッシュ道路の整備をはじめといたしまして、サイクリングロード、公園整備などを行います。そして東名高速道路の阿知波地区および新東名高速道路のサービスエリア、NEOPASA 岡崎へのスマートインターチェンジの開設に向けまして、ただ今国と交渉しているところでございます。これから岡崎の全体を見据えたまちづくりをしっかりと進めてまいりますので、ご期待いただきたいと思います。

このように、現在、私の2期目の市政も順調に進んでおりまして、1期目でまいりました事業の種が、これから2、3年のうちに花として開き、皆さま方の目を見て、その成果を感じていただくことができるようになってまいります。これからも次の100年を見据えて、基本施策の充実や魅力あるまちづくりにしっかりと取り組むことで、いつも申し上げますとおり、岡崎の子どもたちが自らのふるさとに対してこれまでより大きな愛情と誇りが持てる、そんな夢のある新しい岡崎を築いてまいりたいと考えております。今後とも引き続き皆さま方のお力添えをお願い申し上げまして、少々早口でご無礼いたしました。私の話を終了させていただきます。ご清聴ありがとうございました。

司会— それでは要望、提案を事前に伺っておりますので、発表していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

団体代表A— ただ今、これからの新しい岡崎の説明ありがとうございました。私からはJRの岡崎駅の観光PRについて質問をさせていただきたいと思います。先ほどもJRの岡崎の駅長さんが来られてお話がありましたように、JRの岡崎駅はこれから愛知環状鉄道を利用する乗客が大変多くなりまして、名鉄の岡崎駅を抜いておるぐらいの利用客がおるということであります。それに伴いまして、観光客も結構、大勢来ております。

それで確か27年の7月には観光案内所を設置していただいたと思っておりますが、観光案内所ができて、その周りの、来たときに、岡崎に入ったときの観光PRが一つ欠けているんじゃないかなというふうに私は考えております。もう少しあそこら辺の構内を利用した形で観光PRをさせていただいたら、さらにお客さんに対していいPRになるんじゃないかなと思ってますので、その辺を一つ考えてほしいなど。幸い、私どもの会長は観光大使でありますので、そういった意味も含めて、ぜひいい回答をお願いしたいと思います。以上です。

司会ー ありがとうございました。それでは回答をよろしくお願いいたします。

市長ー おっしゃるとおりだと思います。私は基本的にはその方向で、これからの施策を進めていきたいというふうに考えているわけであります。岡崎駅の乗客数は JR 東海道本線と愛知環状鉄道を合わせまして、現在、1 日で約 2 万 2000 人の利用者であります。このため、JR の岡崎駅構内を含めまして、周辺で観光 PR を行っていくことは大変効果的であろうと、このように考えております。

現在、観光協会が運営いたします JR 観光案内所では、パンフレットの配布やポスターの掲示、各種イベントの案内など、さまざまな観光 PR 活動を行う他、公共交通機関を利用して主要な観光スポットを巡っていただけるよう、市内の観光案内に便利なアクセスマップなどを配布して観光客への利便性を高めるとともに、当該駅を利用する市民も対象といたしまして市内回遊の促進を図っております。

また岡崎市が管理いたします駅の自由通路におきましては、壁面を活用して観光案内板や大型ポスターの掲示によりまして、市内各所やイベントなどを紹介しております。今後につきましては、多くの人が行き交う駅構内および自由通路という特殊な環境の中で、さまざまな法規制をクリアしながら、JR および駅の自由通路の管理者と協議をいたしまして、これらを有効に活用した効果的な PR が可能かどうかを検討してまいりたいというふうに思っております。また駅周辺の事業者の皆さま方とも連携、協力しまして、駅利用者に向けたサービスの展開も検討してまいりたいと思っておりますので、またいいアイデアがありましたら、ぜひ教えていただきたいと思います。

団体代表 Aー ありがとうございました。

司会ー 引き続きまして要望、提案をよろしくお願いいたします。

団体代表 Bー JR 岡崎駅のにぎわいについて質問させていただきます。シビックコアの地域交流拠点、このたび、民間企業でありますアイ・ケイ・ケイさんが、平成 29 年 10 月にオープンされるという予定であることが、平成 28 年 11 月に発表がありました。この地域でのにぎわいの創出に取り組んでいます、われわれ当協議会としましては、アイ・ケイ・ケイさんの商業施設の隣に設置される 1 号公園内でシビックセンターさんのイベントと連携したイベントを開催することによって、駅周辺を回遊する市民が増加し、地域の活性化を図れるものと考えております。岡崎市さんの考え方を教えてください。

司会ー ありがとうございました。それでは回答をよろしくお願いいたします。

市長ー ありがとうございます。シビックコア地区の活性化につきましては、これまでも出

会いの駅おかざき推進協議会をはじめとする地域の皆さま方と、計画の段階から連携して進めることができておりまして、大変感謝しております。シビックコア地区の北の拠点であります、シビックセンターの広場で開催されております夏祭りやハロウィーンパーティーなどの住民参加の活動と、来年 3 月に完成する南の拠点となる 1 号公園でのイベントを、出会いの小径、歩行者重視の道路を通じて大きく連携させることによりまして、地域住民のコミュニティーがさらに強固なものとなります。にぎわいのエリアが広がってまいりますので、駅周辺の回遊性が高まり、地区全体の活性化につながるものではないかと、このように考えております。

第 1 号公園の活用案につきましても、会いの駅おかざき推進協議会の皆さま方からさまざまなイベントのアイデアをいただいております、市としてもにぎわいのさらなる創出を目指して、でき得る限りアイデアを実現していきたいというふうに考えております。公園の設計には、キッチンカーを置く場合の設置エリアの確保、必要となるコンセンツの確保、さらには在来種による植栽などを計画しているところであります。また公園の名称につきましてもは、市民の皆さま方に愛される公園として、地域の方々の声を重視してこれから決めていきたいというふうに考えております。以上です。

団体代表 Bー ありがとうございます。

司会ー それでは次の要望、提案をよろしくお願いいたします。

団体代表 Cー 私は 15 年ほど前から岡崎小学校の前にあります会社に毎日のように通っているわけですが、年々のように交通渋滞、渋滞とまではいかないんですが、日々混雑を感じるようになりまして。当初はとてもさみしい所だなという気はいたしましたが、区画整理事業も決まりまして。工事が始まりまして、当初、工事車両が多かったんですが、その後ポツポツと周辺にいろんなアパートとか住宅もできてまいりまして、多分、岡崎小学校の園児数、児童数は増えてるんじゃないかと思います。

その中で、3 年後に大学病院ができて、また先ほどのご説明にもありましたようにショッピングセンターも二つほどできる予定の中で、東西南北、われわれの会社からいいますと東側に JR が南北に走っておりまして、また西側に占部川が流れておりまして、南のほうに砂川が流れておりまして、こういった橋が要る、それから越える地下道とかそういったものが要る中で、15 年前のインフラではとても少ないかなと思いますが、3 年後の開院に向かいまして、インフラが少し遅れてるんじゃないかなと思いますが、そんなところ回答をお願いできたらと思います。

司会ー ありがとうございます。それでは回答、よろしくお願いいたします。

市長－ 今後の南部の展開につきまして、最重要なのは今おっしゃられました道路整備だ
っていうふうに認識しております。当然、そのことは私もですし、地元選出の県会、国会議
員も共通認識として持っております、社員の皆さま方の協力を得て、これからしっかり務
めていきたいと思っております。

岡崎東から西へのアクセスを向上させる都市計画道路柱町線の整備につきましては、昨
年度から始めたわけでありましたが、列車運行の安全確保をしながらの工事でありまして、わ
れわれが想定する以上に時間がかかる工事となっております。万が一にも工事が原因で東
海道本線が長期間ストップしてしまいますと、日本経済にも大きな影響を与えかねません。
開通は平成 35 年度末となっておりますので、大学病院も開院には残念ながら間に合いませ
んけれども、この点をご理解のほど、何卒よろしくお願い申し上げたいと思っております。

しかし、2 次救急を担っていただく大学病院へのアクセスルートの確保につきましては、
市としても重点事業として捉えております。新たな都市計画道路の整備についても、全市的
に見ましても岡崎駅周辺を最も集中的に整備しておりまして、現在柱町線その他、3 路線につ
いて全力を挙げて推進しております。

一つ目は、西からになりますが、郡界橋の架け替え工事が進んでいる井内新村線について、
今年度末に開通いたします。

二つ目は、東から主要地方道刈谷線を通して、JR 羽根ガード西のもう一つの西の交差点
から南に向かう福岡線につきましては、病院、商業施設までの区間となりますが、これは平
成 30 年度末までの開通を予定しております。

三つ目は、主要地方道岡崎碧南線の若松町西之切信号付近から病院、商業施設に向かって
若松線を整備しておりまして、これも平成 30 年度末の開通を予定しております。

また、駅の西口から大学病院に向かうバス路線を事業者と協議しておりまして、公共交通
機関を使ったアクセスも実現してまいりますので、どうぞご理解のほど、よろしくお願い申
し上げます。

司会－ それでは次の要望、提案をよろしくお願いいたします。

団体代表D－ 岡崎駅ロータリーの渋滞対策について、ちょっとお聞きます。JR 岡崎駅
東口のロータリーにおける朝夕の渋滞をどのように考えているのでしょうかということ。
バスは混雑が分かっているにもかかわらずクラクションを鳴らし続けたり、駐車帯の順次前にという看
板にも一般車両は前へ詰めることもなく、後ろの車はそれが見えないので、バスの入り口を
封鎖していたり、二重駐車したりしていて、そこを歩行者が渡ったりとか、道路で結構危な
いこともあるので、そのような誘導とか待機ができるようなことが何かあるのでしょうか。お
願いします。

司会－ ありがとうございます。それでは回答をよろしくお願いいたします。

都市整備部長－ 皆さま方には本当に日頃から、多大なるご理解、ご協力を賜っておりますこと、まずもって御礼を申し上げます。またこの渋滞対策につきまして、ご迷惑、ご心配をお掛けしておりますが、私どもといたしましても、この渋滞対策や歩行者の安全対策につきまして、順次整備をしてまいります。

はじめに、駅前ロータリーに進入する車両を減少させるために、新たに今、急ピッチで造っておりますが、交流拠点の西側、線路沿いの道路を拡幅いたしまして、乗降に利用できる歩道付きの道路を整備いたします。さらに今の道路などの出入りになりますが、駅利用者のための駐車スペースとして、交流拠点の南側に 10 台分を確保いたします。この駐車場は交流拠点事業者のご提案によるもので、最初の 20 分間は無料で利用できることから、送迎、特にお迎えの待機場所に使っていただければと思っております。

また駅前広場では、今年度の秋からペDESTリアンデッキの建設を行います。このペDESTリアンデッキは 31 年秋頃に完成をする予定で、ペDESTリアンデッキへの乗降口を駅前広場南の横断歩道まで延ばし、東方面からの歩行者をペDESTリアンデッキへ誘導する動線を確認いたします。これによりまして、歩行者の方の安全が図られるとともに、横断歩道の利用者が減少し、車両が横断者を待つ時間が減少することによりましてスムーズに流れ、広場混雑の軽減につながるものと期待をしています。

これらのことを順次実施をいたしますとともに、またその経緯も引き続いて観察をしていきたいと考えておりますので、どうかご理解のほど、お願いを申し上げます。

団体代表D－ ありがとうございます。

司会－ 事前にいただいているご要望は以上でございます。それではその他にご意見のある方がいらっしゃいましたら、挙手をお願いいたします。マイクをお持ちしますので、発言前にお名前を言っていただいて、ご意見のほう、お願いいたします。

団体代表E－ 今現在、東口のほうのお話をたくさんいただいて、西に病院ができるということなんですけれども、JR 駅の西側がちょっと暗いなというイメージがありまして。そこら辺が明るくならないのかなという要望があります。ぼんやりとは明るいんですけど、街灯が随分高い所にありますので、夜 8 時超えたり 9 時ぐらいになると、歩いてる人の顔も止まってる車のナンバーも見えないぐらい暗くなってしまうんですけれども、そこら辺が明るくなったらいいなと要望します。

司会－ それでは回答、よろしく願いいたします。

都市整備部長－ 今の点についてご回答させていただきます。ご指摘のように西口広場、造

られた年代がかなり前だということもございまして、東口に比べると、どうしてもそういう環境面で今となつては不十分な部分がございます。こちらにつきまして、照明ではございませんけれども、昨年度までに中の島を一つ削りまして、歩行者の方が安全に駅のほうへ、列車のほうへ来ていただけるような横断歩道、こういったものの整備をさせていただいたところでございます。

また、西口につきましても、今まだ具体的な計画ではございませんが、また時期を見まして再整備のほうということも構想として持っております。そういった長期の対応とともに、今ご指摘をいただきました近々の課題につきましては、一度調査をさせていただきまして、しかるべき措置を講じれるように検討させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

団体代表Eー もう一回いいですか。今言われた横断歩道が新しくできたんですけど、あそこが見にくいらしくて。事故が起こったとは聞いてないですけど、急ブレーキをかけたっていうのを何回か聞いてますので。自分はちょっと通ったことないんですけど、通る、渡るのが怖いっていうのは聞いたことがあります。

司会ー 回答、お願いいたします。

都市整備部長ー 重ねてのご指摘、ありがとうございます。今のところにつきましては、本当に早急に、一度夜間の状態を確認させていただいて、対策を検討させていただきます。お願いいたします。

司会ー 他にご意見のある方、おみえでしょうか。どうぞ。じゃあマイクをお持ちしますので、お待ちください。

団体代表Fー この前から協議会に参加させていただいて、また、とみに感じたんですけど、それをこの場で、思いと意見という形でお聞き願えればと。事前にはアンケート出してないんで。私、今、岡崎駅針崎若松土地区画整理事業の地権者であって、ついこの間、3月の第6回の総会を終えまして。結論からしますと、今その区画整理事業で感じてるのは、先ほど市長さんがおっしゃっていただいた、岡崎はハードだけじゃないよと。ソフトをもっと大事にしていく、それは今までのまちづくりの失敗事例を踏まえての、新たな取り組み方だと思います。

私がこの場で意見させていただくのは、今の針崎若松土地区画整理事業はハードで終わる感じがするんです。私は一地権者で、市の関係者の方々が、いろんな苦勞をされて、県と事業計画のいろんな調整しながら、また、こちらの針崎若松の地権者の意見も橋渡ししながら、本当によくやっただいてると感じます。ただ、いろんな方がいるんで、高齢化にも

なってまして、市の区画整理の担当者の方の方針っていうのも、なかなか分かってない状況もあるようで、そこで私が代弁する形でこうですか、こうですねってやり取りを何回かさせていただいて、本当によくやっていただいているなど。

なぜかという、私が小学生の頃から、岡崎小学校がまだ向こうのほうにある頃から、公会堂で集まって区画整理の話、もう半世紀過ぎてるんですね。半世紀過ぎてる中で、今いろいろな話、都市整備部長さんもおっしゃられた、このシビックコアの面でというところ、私もさすがに岡崎市だなんて、住んでる者としてお聞きさせていただきました。

藤田学園、それで商業施設等、いろいろこれから発展させていこうというところで、ちょっと全体を見させていただいてるところで、これは私のイメージですけど、駅は東口の所が整備されて、今、公園とか結婚式場とか多目的ホールができると。そこが部分っぽいですね。その開発されてる部分、駅の東口は駅の周りだけで、面で広がってない感じがするんですね。

西口の方は、藤田学園というコアがあって、駅で、線、面で結構イメージもつながってる感じなんですね。東口は駅以外にコアがないせいかもしれないですけど、駅前の東がちょうど終わって、それで針崎若松はその少し南で延長、区画整理っちゅうのは昔のところで反対して、ちょうど踏切の所までになってたのが復活して、それで本年度から区画整理事業で動いてくという流れなんですね。そこのところで南の方に行く所は、道は確かに広がって、当然、区画整理ですから県道が広がって、交通はスムーズにいくと思うんですね。

それで今の進捗で見てますと、従来の区画整理で換地が、現場等で換地がどこいってますかという話で、このシビックコアの面でのイメージの、そのフィッティングを、つながりっちゅうのが感じられないんですね。そこの針崎若松のところだけで話がされてるというレベルだと思うんですね。せっかく今のところで、シビックコア全体で先ほど都市整備部長さんがおっしゃられた、ずっと広がるところが、商業とかそういうのある中で、部分的にそれが今のような形になってきたというところで、この針崎若松も何かシビックコアの面のところの中に位置付けされれば、もっとう、何かシビックコアのイメージが実現してくんじゃないかなって感じた次第です。これは私もどういふうかっちゅうのは分かりません。ただ今、感じたところの意見です。

それに対して、これは市の区画整理事業なんで、それに対して何かこういうふうにできるとか、何かそういう選択肢、代替案があれば。また次に8月ぐらいに総会がありますんで、そのときにまた私、何かするんで、何かおっしゃっていただけましたらと思うんです。これは今の私の思いないし意見という感じです。お願いします。

市長－ 今のはご要望ですか。それとも質問ですか。

団体代表F－ 私の感じた、今の、せっかく区画整理やられるんでしたら、このシビックコアの、その動きに何か合うか連動したほうがいいんじゃないかなというご意見です。

市長－ 連動して何かをやれということですか。

団体代表F－ そこまで私はまだ具体的なイメージはないです。今感じてる、私の意見です。

司会－ それでは回答、お願いいたします。

都市整備部長－ ご意見ありがとうございます。正直言って、今、私といたしまして答えは持ち合わせておりませんけれども、お伝えをいただきましたことは参考にさせていただきまして、今後の事業の計画から進捗の方につきまして、できることは汎用させていただきたいというふうに考えておりますので、本日はそのところでご理解を賜りたいと思います。

司会－ ありがとうございます。貴重なご意見、ありがとうございます。お時間の方が参りましたので、今の件で最後にさせていただきたいと思います。それでは最後に市長からご挨拶を申し上げます。

市長－ きょうは皆さま、本当に遅くまで熱心にこの会議に参加していただき、ありがとうございました。時間が十分なくて、今、発言できなくて、どうしてもこれは言いたいということがございましたら、私まだしばらく残っておりますので、こちらのほうまで来ていただければお話を伺わせていただきます。今日、お伺いしたことを、すぐ対応できるものと、また、これはしばらく時間をおかなければできないこともあるわけでございますけれども、市の責任ある立場である者として、そのことをしっかり受け止めさせていただいたことは間違いないですので、何らかの形で活かしていきたいと思っています。

ただ一つ言わせていただきますと、かつて私が県会議員だったときに「南部は見捨てられとる」と、「何もやってもえん」っちゅうことをよく言われたんですけど、今、南部が急速に発展しつつあります。これはなぜかという、歴代の市政が3代にわたって300億近いお金をこの区画整理事業に、また、補助整備事業に投入して、このエリアをずっと整備してきたわけでございます。そうした土壌ができた上に、今、道路ができて、市街地が広がっておるわけでありまして。

物事っていうのはやっぱり発展段階っていうのがあるわけございまして、家も基礎の整備ができないことには、家は建たないわけでありまして。南部はその基礎ができて、今、大きく進みつつあるわけございまして、何をやったらいいかという、先ほどの市街化の広がりということでございますけど、私もまだ明確なイメージはその先のところまで持つて居ないわけじゃないわけですけども、これまで農業地域という位置付けの中で開発が進められてきた南部が、道路ができて市街化が広がることによりまして、今、新たな展開を見せようとしているわけでございます。

私たちはその基礎的なものをこれからもしっかり整備していきたいと思っておりますけれども、その上に種をまき、花を開かせていただくのは、やはりこれは民間の力が主体となっていかなければ駄目じゃないかと、このことは思っておるわけでございまして。もちろん市のほうもそれに協力して、頑張っていきたいと思っておりますので、またいいお話がありましたら、ぜひ教えていただきたいと思います。きょうは本当にどうもありがとうございました。